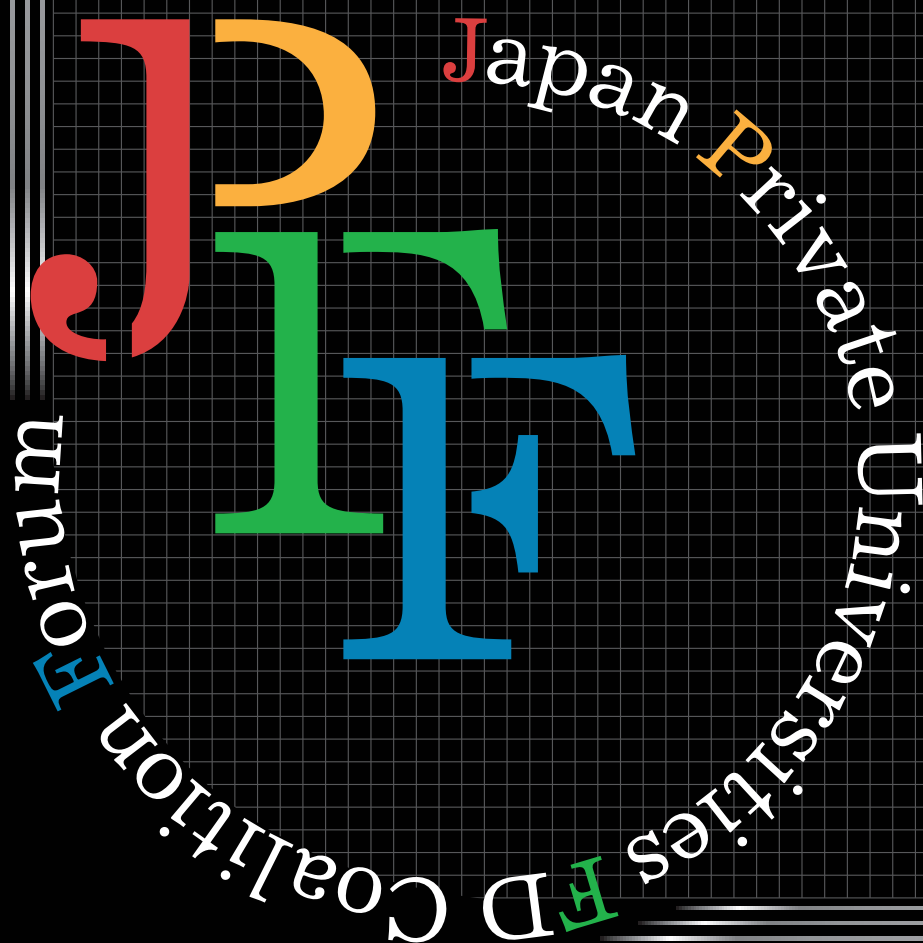


実践的FDプログラム

● 実践的FDプログラムのねらい、プログラム抽出例、質保証の木	2
● 実践的FDプログラム俯瞰図	3
● 実践的FDプログラムが保証する教授・学習支援能力	4
● 講座一覧、受講者の声	5~7
● 受講方法（JPFF入会案内）、問い合わせ先	8



日本の新しい「高等教育の質保証」標準をめざします。

全国私立大学FD連携フォーラム

実践的FDプログラムのねらい

実践的FDプログラムとは、教員が自らの授業を専門分野と教育学の観点から省察することができる知識、技能、態度、特にアクティブ・ラーニングを実践する能力を修得する研修プログラムです。

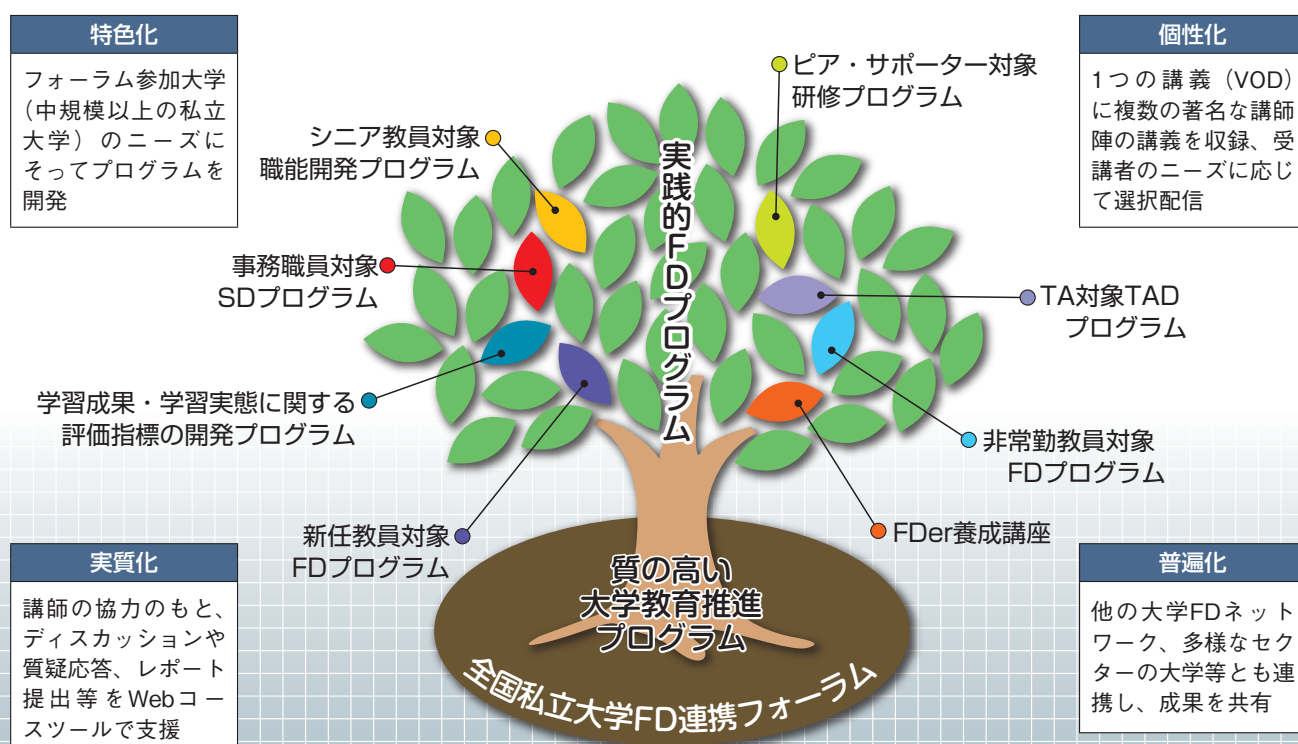
本プログラムは、教員の4つのアカデミック・プラクティス（教育、研究、社会貢献、管理運営）に対して、①教育学をはじめとした系統的な理論のオンデマンド講義、②授業技術やコミュニケーションスキルを育成するワークショップ、③個々の教員ニーズに応える日常的な教育コンサルテーションから構成されています。

私立大学には、クラス規模の大きさ、教員の持ちコマ数の多さ、学生の学力と学習意欲の多様性など、多くの困難な教育条件が存在します。たとえば、各大学では、新任教員研修において本プログラムを利用することを通して、大学教員に求められる教育力量と職能を育成し、大学教育の質を保证することが可能となります。

FDマップからのモジュール・プログラム抽出例



「大学教育の質保証」の木



実践的FDプログラムの俯瞰図

※立命館大学の現行モデルになります。



「実践的FDプログラム」が保証する教授・学習支援能力

教授・学習支援能力

1 学習活動の設計

- 1-1. 教授と学習に関する一般的理論を理解する。
- 1-2. 学生はいかに学ぶかを理解したコース設計ができる。
- 1-3. 学習者中心の授業の設計と計画ができる。
- 1-4. 学習者中心の授業に必要な目標設定とその適切な記述ができる。
- 1-5. 学習者中心の授業において適切な評価観点の設定と評価方法の選択ができる。
- 1-6. アクティブ・ラーニングを取り入れた授業の設計と計画ができる。

2 教授および学習活動の展開

- 2-1. 高等教育において学習者中心の授業を実施するための教授・学習方略、方術を理解する。
- 2-2. 学習を支援する様々なテクノロジーの特徴、利用方法を理解し、授業に用いる。
- 2-3. 学習展開に応じて柔軟に授業を修正・転換できる。
- 2-4. 学生と協同して授業を進めることに意欲をもつ。
- 2-5. 専門分野における調査研究や実践のプロセス、成果を積極的に授業に取り込む。
- 2-6. アクティブ・ラーニングを取り入れた授業の実施ができる。

3 授業の質の保証

- 3-1. 教授・学習方略、方術に応じた教育効果の評価方法を理解する。
- 3-2. 客観的かつ厳格な成績評価ができる。
- 3-3. 教育効果の評価結果について学生に効果的なフィードバックができる。
- 3-4. 自らの授業や実践を省察し、改善することができる。
- 3-5. アクティブ・ラーニングを取り入れた授業の評価ができる。

4 効果的な学習環境および学習支援環境の開発

- 4-1. 学習コミュニティの形成を促進する。
- 4-2. 様々なメディアやツールを活用し、効果的な学習環境の整備や学習支援ができる。
- 4-3. 学習支援のためのツールや環境の開発ができる。

5 自己の専門性の継続的な発展

- 5-1. 学生の多様性を認め、尊重する。
- 5-2. 自らのキャリアの設計と継続的な開発に努める。
- 5-3. 大学教員集団の一員として働く。
- 5-4. 常に高等教育や教授法に関する新しい知識を取り入れることに努める。

6 大学特有の必要とされる力

- 6-1. 所属する大学の教学について理解する。

受講者の声 名取 隆 先生（テクノロジー・マネジメント研究科）

実務出身の教員として、今回のFDプログラムは非常に役に立っています。オンデマンド講義による体系的学習、ワークショップなどの参加型研修、そして教育コンサルテーションの3つがうまく組み合わせられ、よく練られたプログラムだと感じています。研修では、教員同士が互いに授業での悩みを語り、解決の秘訣を披露し合うなど、横の情報共有ができました。また、模擬授業の相互参観により、自分の授業を客観的に捉えることができました。研修で得たことは早速、授業で実践しています。例えば、学生が授業をフォローしやすいように、板書を活用すること、グループ作業・討議を取り入れて学生の参加度を高めることなどです。その結果、授業の出席率も高く、総じて学生からよい感触を得ています。こうした成果は、研修担当の先生と職員の方々の、あたたかで懇切丁寧なご指導、ご支援の賜物と感謝しています。これからも努力を重ねていきたいと思っています。

実践的FDプログラム 新任教員対象モデル（参考例）

※立命館大学の現行モデルになります。

※各大学の対象者や実施目的の違いによって、講義（VOD）や講座（WS）を選択し、様々なプログラムを作ることができます。

※下記の講義（VOD）や講座（WS）は、今後とも全国私立大学FD連携フォーラムにおいて引き続き開発され、発展していきます。

○ オンデマンド講義（VOD）

講座番号	分野	テーマ	講師	到達目標
L1EGV10	立命館学Ⅰ	学習者が中心となる教育をすすめるために—立命館大学での教育—	中村正 (立命館大学)	①立命館大学の学生の特徴、学生文化を理解する（知識） ②立命館大学の教学の特徴を説明できる（知識） ③立命館大学の大学文化や理念・目的、学風、教育研究支援体制等を理解する（知識）
L1EAV10	高等教育論Ⅰ	現代の高等教育	金子元久 (東京大学)	①日本及び世界の高等教育の状況を説明できる（知識） ②自らの大学の置かれた立場と今後の対応を考えることができる（知識）
L2EAV30	高等教育論Ⅲ	大学改革とFD研究	江原武一 (立命館大学)	①日本及び世界の大学改革とFD研究の進展を説明できる（知識）
L3EAV40	高等教育論Ⅳ	大学評価論	安岡高志 (立命館大学)	①日本及び世界の大学評価の沿革と現状ならびに今後の方向性について説明できる（知識）
L1EDV10	授業設計論Ⅰ	大学の授業の設計	沖裕貴 (立命館大学)	①カリキュラムや授業の設計において、学習成果を明確にし、適切に到達目標(行動目標)を設定することができる（知識、技能） ②カリキュラムや授業の設計において、適切な評価の観点と方法を選ぶことができる（知識、技能）
L1EBV10	教授学習理論Ⅰ	教授・学習の理論と教育実践(1)	永野和男 (聖心女子大学)	①教授学習に関する基本的な理論を具体的に知る（知識） ②行動主義と認知主義の2つの学習論の区別ができる（知識）
L1EBV20	教授学習理論Ⅱ	教授・学習の理論と教育実践(2)	永野和男 (聖心女子大学)	①教授学習に関する基本的な理論を具体的に知る（知識） ②行動主義と認知主義の2つの学習論の区別ができる（知識）
L1ECV10	教育方法論Ⅰ	教育学の観点から	林徳治 (立命館大学)	①高等教育で用いられる教授方略と方術を説明できる（知識） ②自らの授業の教授方略と方術を分析し説明できる（技能）
L1ECV20	教育方法論Ⅱ	高等教育における授業技術	木野茂 (立命館大学)	①授業運営に必要な指導技術の留意点を説明できる(知識) ②自らの授業における指導技術を省察できる（態度）
L2EEV10	教育評価論Ⅰ	大学の授業の評価	鳥居朋子 (立命館大学)	①授業の到達目標（行動目標）に沿って適切な評価方法と評価基準を設定できる（技能） ②教授方略、教授方術に沿って適切な学習成果の評価方法を検討し、開発（例：ルーブリック評価等）できる（知識、技能） ③自らの授業に関して客観的かつ厳格な成績評価と学習者への適切なフィードバックを心がける（態度）
L1EFV10	心理学Ⅰ	青年期の心理	白井利明 (大阪教育大学)	①発達心理学の一領域である青年心理学の基礎的事項を説明できる（知識） ②青年期における心の葛藤、発達課題を説明できる（知識） ③指導する学生に対して、青年期の心理を理解した上で対応することを心がける（態度）
L1EFV20	心理学Ⅱ	発達の原理と各段階の特性	西垣順子 (大阪市立大学)	①発達と成長の原理を説明できる（知識） ②青年期という発達段階の特性を、児童期や乳幼児期との対比で説明できる（知識） ③青年期の学生が遭遇しやすい困難や不適応について説明でき、自らの教育活動の中で参照できる（知識、技能、態度）
L2EFV30	心理学Ⅲ	臨床心理学の基礎と応用	串崎真志 (関西大学)	①臨床心理学的な学生理解と対応の基本を理解し、説明できる（知識、技能） ②大学生の悩みの特徴と回復の基本を理解し、説明できる（知識、技能） ③発達障害（LD、アスペルガー障害等）の学生の特徴を知り、適切に対処する態度をもつ（態度）
L1AJV10	大学管理運営Ⅰ	大学教職員のための大学管理運営基礎	肥塚浩 (立命館大学)	①大学の組織的特徴を理解する（知識） ②大学管理運営において教職員が果たすべき役割を理解する（態度）
L1AJV20	大学管理運営Ⅱ	近年の大学改革の進展を踏まえた大学管理運営の新たな発想	山本真一 (広島大学)	①大学改革を必要とする背景とそれに応じた大学の管理運営の基本について説明できる（知識） ②大学教職員として、新たな状況に応じ管理運営上の適切な判断ができる能力を養う（能力） ③大学に求められるコンプライアンスとアカウンタビリティ醸成の基本的態度を学ぶ（態度）

受講者の声 安藤 妙子 先生（理工学部マイクロ機械システム工学科）

今年度は前後期で同科目のⅠとⅡを担当しましたが、講義は大きく異なったものとなりました。FDプログラムやFDプログラムを通して他の新任教員や教育コンサルタントとの定期的な交流がよい活力になっています。

着任直後の前期の講義は不安ばかりが先行し、90分間ひたすら話し続ける授業を行っていました。FDプログラムを通して大学の講義（今年は高等教育を中心に）のあり方や授業の設計法などを学ぶと同時に自分自身で考えました。一方で授業における様々な具体例を聞くことができ、自分の中に授業に対する自信や余裕が生まれ、後期の授業は板書を中心にポイントを絞った授業を展開していくことができるようになりました。わからないことを尋ねることができるようになった教員同士のネットワークの構築もまた、自信につながったものと考えています。

余談ですが、FDプログラムのレポート提出を通して学生の気分を久しぶりに思い出せたのもよい刺激になりました。

ワークショップ (WS)

講座番号	分野	テーマ	到達目標
L1EDW10	授業設計論演習Ⅰ	シラバスと授業の到達目標の書き方	①シラバスと授業の到達目標を観点別に行動目標で表現できる (技能)
L2EDW20	授業設計論演習Ⅱ	強制連結法による授業設計	①強制連結法を用いて授業を設計することができる (技能)
L2EDW30	授業設計論演習Ⅲ	マイクロティーチングと評価	①強制連結法を用いて設計した授業を実施、相互評価することができる (技能) ②公開授業等において、授業評価を行う際に求められる観点を知り、適切な評価を行うことができる (技能、態度)
L1EBW10	教授学習理論演習Ⅰ	アクティブ・ラーニングの方法と実践 (ピア・サポーターの活用を中心に)	①ピア・サポーターを活用したアクティブ・ラーニングの方法を修得し、実践することができる (技能) ②各自が実践しているアクティブ・ラーニングの交流を通して、自らの授業を省察できる (態度)
L1EBW20	教授学習理論演習Ⅱ	アクティブ・ラーニングの方法と実践 (ICTの活用を中心に)	①ICTを活用したアクティブ・ラーニングの方法を修得し、実践することができる (技能) ②各自が実践しているアクティブ・ラーニングの交流を通して、自らの授業を省察できる (態度)
L1ECW20	教育方法論演習Ⅱ	良い授業のための留意点 (話し言葉に着目して) 一図形並べ	①自分の指示すべき情報が、どの程度、口頭で的確に伝達されるかを体験する (知識) ②フィードバック (質問、聞き直し) がある場合とない場合で、どの程度口頭による指示の伝達が異なるかを体験する (知識) ③教員が得意とする言語情報 (verbal communication) の限界を体験する (知識、技能)
L1ECW30	教育方法論演習Ⅲ	良い授業のための留意点 (非言語、視覚情報の応用) 一表現力とアイコンタクト、無言面接	①自分の表情、アイコンタクト、態度が他人に与える印象を知る (知識) ②状況に応じて自分が相手に好印象を与える表情、態度、アイコンタクトを演じることができる (技能)
L1EFW10	心理学演習Ⅰ	聴き手に求められる力	①聴き手の姿勢や態度が話し手の話す意欲に影響することに気づく (技能) ②話す意欲を高める／損なう要因を知る (技能)
L2EFW10	心理学演習Ⅱ	相手の気持ちに立って話をする力 (犬・バラ法)	①犬、バラ法を用い、「あいづち」や「相手の言葉を繰り返す」技術を身に付ける (技能) ②相手の話の背景にある意見や気持ちを思い浮かべることができる (技能)
L2EFW20	心理学演習Ⅲ	アサーション・トレーニング	①自分の指示や指導の仕方の特徴を知る (技能) ②自分の気持ちも相手の気持ちも大切にしたい指示、指導ができる (技能)

オプション 一覧

オンデマンド講義 (VOD)

講座レベル	分野	テーマ	講師	到達目標
EL2	授業設計論Ⅱ	授業設計と授業方法・技術・評価	横田学 (京都市立芸術大学)	①授業設計に沿った効果的な授業方法・技術について説明できる (知識) ②授業を適切な観点から評価することができる (知識、技能、態度)
EL1	接続教育Ⅰ	初年次教育の取組	山田礼子 (同志社大学)	①初年次教育の重要性、そのための取組の意義を理解できる (知識)
EL2	教育方法論Ⅲ	教育メディアの利用	宮田仁 (滋賀大学)	①教授と学習を支援する各種教育メディアの特徴と利点を説明できる (知識) ②自らの授業のメディア利用を省察し、効果的な利用を心がけることができる (態度)
EL1	教育方法論Ⅳ	学習教材作成における著作権等の理解	坂井知志 (常磐大学)	①学習教材として写真や映像、文献資料などを用いる際に留意すべき著作権等の法律について理解する (知識) ②著作権や個人情報保護法などに留意して、文献や各種資料を活用する (態度)
EL2	教育方法論Ⅴ	学生授業評価の読み方と授業への活用	安岡高志 (立命館大学)	①課題をもって授業に臨む態度が身に付く (態度)
EL1	教育評価論Ⅱ	学習達成度評価 (試験、課題、作成スキル、配点、評価法)	野嶋栄一郎 (早稲田大学)	①授業の目的に合った試験、課題等のあり方について理解する (知識)

受講者の声 落合 淳思 先生 (文学部東洋史学専攻)

私は、FDプログラムを「ヒント」が与えられる場であると感じました。

大学の講義では、専門のゼミや演習はともかく、大教室ではさまざまな学部・学科から学生が集まるため、基礎知識から解説する必要がありますが、普段、自分の専門分野の中で研究をしていると、その分野での基礎知識を当たり前のこととしてしまいがちです。

FDプログラムからは、研究者としての教員と多様な学生をつなぐためのヒントを得ることができ、講義の目標や内容を学生に分かりやすく解説する方法や、学生側の理解のためのツールなどが提示されます。

ただし、FDプログラムは、それに参加すれば講義がすべてうまくいくというような万能のものではありません。自分が得た「ヒント」を能動的に講義に反映させるという意欲を持って参加することが大事だと思います。

講座レベル	分野	テーマ	講師	到達目標
EL1	教育評価論Ⅲ	ティーチング・ポートフォリオとは	栗田佳代子 (大学評価・学位授与機構)	①ティーチング・ポートフォリオ作成の意義を理解する (知識) ②ティーチング・ポートフォリオの作成方法を説明できる (知識)
EL1	情報活用基礎	ICTを活用した学習コミュニティづくり	中島英博 (名城大学)	①大学におけるICTを活用した学習コミュニティづくりの意義について知る (知識)
EL2	心理学Ⅳ	発達障害のある学生の学びーアスペルガー症候群を中心にー	荒木穂積 (立命館大学)	①発達障害 (アスペルガー症候群) の歴史と現状について知る (知識・理解) ②発達障害のある人 (アスペルガー症候群のある人) へのライフサイクルから見た特徴とその生きづらさについて知る (知識・理解) ③発達障害のある学生 (アスペルガー症候群のある学生) への学びの支援について関心をもつ (意欲・態度)
EL2	高等教育論Ⅱ	高等教育研究史	有本章 (比治山大学)	①日本及び世界の高等教育研究の沿革を説明できる (知識)
AL1	高等教育政策Ⅰ	戦後日本の大学政策 (転換期の大学政策、海外との比較)	高野和子 (明治大学)	①戦後の日本における大学政策の展開と課題について理解する (知識)
AL2	リスクマネジメントⅠ	大学教員のためのキャンパスハラスメント	井口博 (東京ゆまにて法律事務所)	①セクシャルハラスメント、アカデミックハラスメント、パワーハラスメントの概要について理解する (知識) ②キャンパスハラスメントを起こさないように、自己の言動に気を配るようになる (態度)
RL1	研究者倫理Ⅰ	研究者として守るべき倫理観	望月昭 (立命館大学)	①研究者に求められる基本的な研究者倫理について理解する (知識) ②研究者に求められる基本的な研究者倫理を守ろうとする (態度)
RL1	研究のアウトリーチ活動Ⅰ	研究者にできる多様なアウトリーチ活動の紹介	半田利弘 (東京大学)	①研究者によるアウトリーチの様々な形態をその特徴と共に認識し、自己の目的にあった活動を実行する際の要点を把握する (知識)
EL2	教授学習理論Ⅲ	アクティブ・ラーニングの理論と実践における課題	三浦真琴 (関西大学)	①アクティブ・ラーニングが脚光を浴びている背景について説明できる (知識) ②アクティブ・ラーニングを実現するための方法について説明できる (知識) ③アクティブ・ラーニングを目指す授業をデザインできる (技能)
EL2	立命館学Ⅱ	立命館学園通史ー1900年～2008年ー	坂本和一 (立命館大学)	
EL2	立命館学Ⅲ	1980、90年代の『学園創造』ーとくに、BKC開設・理工学部拡充移転、BKC新展開を中心にー	坂本和一 (立命館大学)	
EL2	立命館学Ⅳ	立命館アジア太平洋大学 (APU) はいかにして創られたか	坂本和一 (立命館大学)	

※上記の講座レベルについては、ELは教育、RLは研究、ALは管理運営を表しています。

ワークショップ (WS)

講座番号	分野	テーマ	到達目標
EL2	教育方法論演習Ⅴ	授業におけるICTの活用 (操作編)	①授業においてICT技術 (Webコースツール、パワーポイント、無線LAN等) を活用できる (技能)
EL1	教育評価論演習Ⅰ	学習達成度評価 (試験、課題、作成スキル、配点、評価法)	①授業の目的に合った試験、課題等が作成できる (技能) ②学生に対し評価の観点や評価方法について適切に説明できる (技能)
EL2	教育評価論演習Ⅱ	ティーチング・ポートフォリオの作成	①実際のシラバス教材、評価アンケートの結果等を用いてティーチング・ポートフォリオが作成できる (技能) ②授業改善のためティーチング・ポートフォリオを積極的に活用する (態度)
EL1	情報活用基礎演習	ICTを活用した学習コミュニティの活動支援	①実際にICTを活用した学習コミュニティづくりや活動支援ができる (技能)
EL2	教授学習理論演習Ⅲ	アクティブ・ラーニングの実践手法	①大学授業においてアクティブ・ラーニングを設計できる (知識) ②大学授業においてアクティブ・ラーニングを実施できる (技能)

※上記の講座レベルについては、ELは教育を表しています。

受講者の声 武田 富美子 先生 (生命科学部生物工学科)

50代半ばで専任になっただけでも、私的には震天動地。その上、「専任経験3年未満」というまぎれもないFDプログラムの対象者として、課されるワークにストレスが増幅される。でも講義する者として、講義を受ける立場に身を置くのは大事なこと。オンデマンド講義は、時間の空いたときに見る。内容や講義の方法を工夫されているので、興味深く拝見している。ワークショップは、行くまでが葛藤なのだが、新人同士の交流もあり、授業のヒントもいただくので、参加して良かったと思う。問題はレポート。締め切り数日前にメールが来て、やっと意識に上る。期限が過ぎたころに、「こんなええかげんなレポート、どうなのよ」と自分につっこみつつ、「出すことに意義がある」と数時間でっちあげてしまう。講義に関係なく書いてしまったこともある。出したあとで自己嫌悪。「これでも研究者の書くレポートと言えるのか!」。そして、学生の出すレポートに優しくなる。

実践的FDプログラムのご利用について

各大学の目的や課題に合わせて、実践的FDプログラムをモジュール化し、新任教員研修やシニア教員研修、大学職員研修、TA研修など複数の研修プログラムをつくり、ご利用いただくことが可能です。

実践的FDプログラムは、全国私立大学FD連携フォーラムにおいて共同開発ならびに運用を進めています。現在、本フォーラムは、立命館大学が2008（平成20）年度に採択された、文部科学省の「質の高い大学教育推進プログラム」の補助金により運営しており、採択期間が終了する2010（平成22）年度までは、会員校に実践的FDプログラムを無償提供します。2011（平成23）年度以降の本プログラム利用方法については、2010（平成22）年度に検討することとしています。

実践的FDプログラムの利用や、全国私立大学FD連携フォーラムへの入会に関するご質問等は、下記事務局までお問い合わせ下さい。

全国私立大学FD連携フォーラムについて（規約より抜粋）

【 目 的 】

第2条 本フォーラムは、全国の中規模以上の私立大学が連携して、FD（ファカルティ・ディベロップメント）を推進することを目的とする。

【 活 動 】

第3条 本フォーラムは、前条の目的を達成するため、次の各号に定める活動を行う。

2. FDに関わる取組や研究の共同開発・実施
3. FDに関わる教材・資料・情報の提供・共有
4. 全国への情報発信（ホームページの作成、広報誌の発行など）
5. その他、前条の目的を達成するために必要な活動

【 会員校 】

第4条 全国の中規模以上の私立大学のうち、本フォーラムへの入会を希望するときは、幹事会に所定の届出を行い、承認を得ることにより、本フォーラムの会員校になることができる。

2. 前項の「中規模以上」とは、所属する総学生数が概ね1万人以上の大学とする。また、幹事会が会員校に相応しいと判断した大学もこれに含む。
3. 参加単位については、大学や機関等組織体による参加とする。
4. 会員校は、第3条に定めた諸活動に参加することができる。
5. 本フォーラムを退会するときは、本フォーラムの事務局に届け出なければならない。

本フォーラムの詳細については、ホームページ（<http://www.fd-forum.org/>）をご覧ください。
入会を希望される場合は、ホームページ内にある入会届をダウンロードし、ご記入の上、郵送かFAXで下記事務局までお送り下さい。



代表幹事校：立命館大学 教育開発推進機構（事務局：教育開発支援課）

〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1

TEL：075-465-8304 FAX：075-465-8318

MAIL：fd71cer@st.ritsumei.ac.jp

URL：http://www.ritsumei.ac.jp/acd/ac/itl/